

手業の冴

～奈良筆～

あかしや筆のできるまで

筆造り道具一覧▶



筆造りに機械は使わない。

これは、毛の一本一本が全て異り千変万化する物であり、しかも、その毛を使って規格品を作るには逆に手業の冴、卓越した技術しかない。



①櫛抜き

毛に櫛を入れて、根本のわた毛を全て取り除き板の上に広げ、よく混ぜ合わせる。



②毛もみ

もみからの灰をふりかけ、炭火で暖めて、脱脂して墨含みを良くし、更に鹿皮にくるみもんで、くせ毛を直す。



③つめ抜き

道具を使わず、指先で少しずつ毛を抜きとりながら、毛先(先端)を揃える。



④先揃え

手金の上に毛をまとめて置き、毛の先端の方から板で叩いて、その振動を利用して毛先の方に毛を揃えていく。



⑤逆毛抜き

はんさしと言う刃と指で毛先と根本が逆になった逆毛を抜いていく。選毛の第一段階である。



⑥寸切り

一本の筆は、一種の毛では出来ない。だから性質の異なる色々な毛を長短に切り分ける。1の毛、2の毛、3の毛とその役割に応じた長さに切る。



⑦平目合せ

寸切りで切り分けた毛を平目と言い各々の平目を合わせる事を平目合せと言う。



⑧練り混ぜ

各々寸切りした各種の平目をバラつきや片寄りが無い様、何回も練り混ぜていく。



⑨芯立て

作る筆の穂の直径に応じてコマと呼ぶ小さな筒に毛を通し、太さを決定する。これを芯立てと言う。



⑩上毛かけ

うすくのばして広げた上毛を芯に巻き着ける。



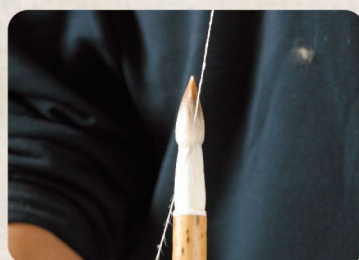
⑪おじめ

焼きごてを穂の尻にあて根元を焼き固め、麻糸で締めて結ぶ。これで穂は完成するのである。



⑫のり入れ

カタメの筆は、更にフノリの液につけ十分に内部まで沁みてさせる。



⑬なぜ

糸でフノリを絞り出ししながら、穂の形を整えていく。



⑭完成品

乾燥すれば完成となる。

奈良筆

一匠の技と心

あかしや

筆造りに機械は使わない。
これは、毛の一本一本が全て異り千変万化する物で
あり、しかも、その毛を使って規格品を作るには逆
に手業の冴、卓越した技術しかない。



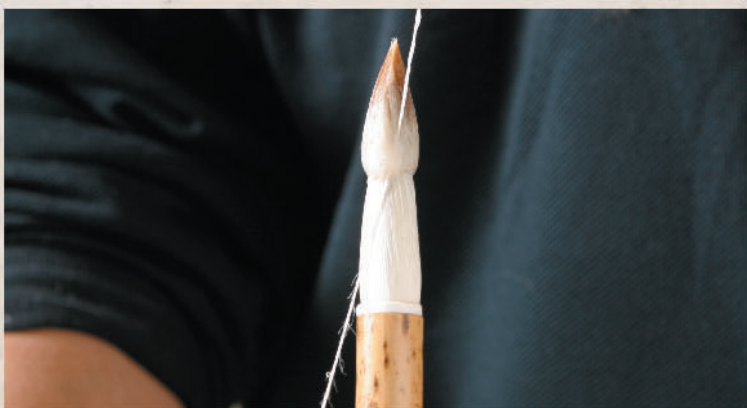
道具を使わず、指先で少しずつ毛を抜きとりながら、毛先(先端)を揃える。



バラつきや片寄りがない様、何回も練り混ぜていく。



焼き固め、麻糸で締めて結ぶ。



糸でフノリを絞り出しながら、穂の形を整えていく。